

ナガエツルノゲイトウ 駆除マニュアル

農林水産省
環境省

農業・食品産業技術総合研究機構

ナガエツルノゲイトウの概要

ナガエツルノゲイトウは、南米原産の多年草で、主に水辺に生えます（抽水植物）。生態系や農業への悪影響のおそれがあり、「特定外来生物」に指定されています。

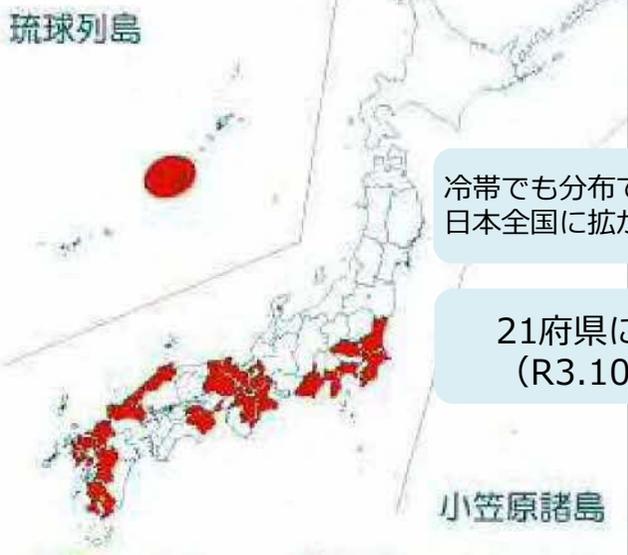
- ・【再生力大】数cmの茎断片からも容易に発根
- ・【拡散力大】茎は千切れやすく、水に浮きやすい
- ・【侵略性大】乾燥にも強く畑地などにも侵入



茎断片から萌芽



陸上（道路際）で生育



水路を閉塞し、取水・排水の障害に



排水機場のスクリーン周辺に溜まり目詰まり

水路、河川、ため池、水田、畦畔、畑などで生育。特に日当たりのよい水辺では大群落となる。



水路での発生



水路での発生



排水路（土水路）での発生



コンクリートのり面の隙間に根を張る



排水機場の法面



河川の生育状況



畦畔（けいはん）※あぜ



水田の周りで繁茂



イネの間で開花



給水栓付近から定着



稲刈り後の水田で生育



冬（1月）の状態

同定するために注目する特徴



節から一对の葉



葉の長さは2.5~5cm、幅は0.7~2.0cm

葉の先はややとがる



茎の中心は空洞（ストロー状）



球状花の直径は1~1.5cmほど



1~4cmほどの長い花柄

葉の脇から伸びる



節に短い毛

茎はなめらかでざらつかない



節からよく分枝する

- ・小さな花が集まった球状花
- ・長めの花柄がある
- ・花柄は葉の脇から伸びる

水田や畦畔などにみられる間違えやすい植物

※これらの種は特定外来生物ではありません

ツルノゲイトウ



球状花は葉の脇にくっつく
 ※花のない時期は見分けが困難

アメリカタカサブロウ



- ・葉に目立つ鋸歯がある
- ・花は球状でなく平たい

タカサブロウ



- ・葉の鋸歯は不明瞭
- ・花は球状でなく平たい

スベリヒユ



- ・葉の先は丸い
- ・葉は互生（交互につく）
- ・花は黄色

シロツメクサ



- ・葉は3小葉
- ・葉に白い紋
- ・球状花の直径2cm

・早期発見、早期駆除（手に負えなくなる前に対策を）

- 生長の初期、個体サイズが小さいうちであれば、簡単に対策を行うことができます。

・粘り強く対応（複数の手段で根絶まで継続実施）

- ナガエツルノゲイトウは拡大力・再生力が強く、わずかに生き残った個体から再生する可能性があるため、粘り強く対応する必要があります。

・周囲への拡散を防止（放置すると周りに迷惑）

- 農業水利施設は、水を介して下流域や農地と繋がりがあることから、被害を拡大させないためにも、適切な対策を行うとともに、水系として管理する視点も必要です。

・ 拡大力・再生力が非常に強い

- 茎は1m以上にも伸び、枝分かれも盛んなので、放置すると群落がどんどん拡大
- 根が残ると再生するため、根を除去することが重要
- 根や茎の断片からも植物体が再生

茎



枝分かれし、節から根を出しながら横に這う



越冬した茎から芽生え

根



地下部は縦横に発達
直根は50cm以上の深さにも



根の断片からも再生

花



開花期は
4月～10月

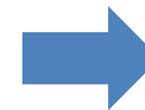


日本では種子
はつけない

再生力



陸揚げされ枯れたように見える



2か月後



再生

・拡散能力が高い

- 茎は中空になっており、水に浮くため、断片が水流によって運ばれ、新たな地で定着・再生
- ちぎれやすいため、大雨時の増水や水流により、広範囲に拡散する可能性
- 一方で種子は作らないため、植物体断片を回収すれば生息域の拡大は阻止可能

拡散のイメージ



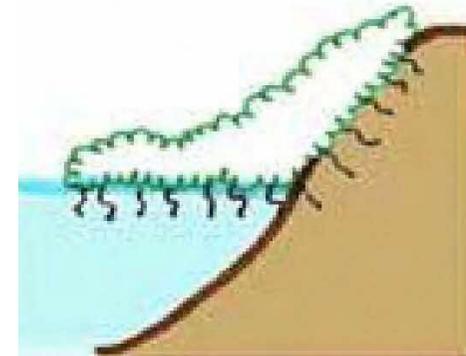
断片の拡散



定着



繁茂



生育イメージ

・除草剤が使える場所(水田、畦畔等)であれば除草剤の使用を検討

- 根(土中50cm以上まで伸長)や茎の断片からも再生するため、植物体全体を枯らすことが可能な除草剤が有効
- ただし、散布した薬剤が水系に流入する場所では使用不可(水田では止水期間を遵守)

・水系単位で監視、駆除を

- ナガエツルノゲイトウの生育が確認された場合は、その水系の上流又は下流に、未発見の生育地が存在する可能性
- 地域の関係者と連絡を取り合い、水系単位で対策を

注意点

- ナガエツルノゲイトウも指定されている「特定外来生物」は、拡散を防ぐため、外来生物法により栽培、保管、運搬、譲渡、放出、植栽等が禁止されています。
- ナガエツルノゲイトウは再生力が高いため、駆除の際にまだ生きている個体を運搬してしまうと、かえって拡散させてしまうことにつながります。
法律上も、適切な手続きをとらずに生きた個体を保管・運搬してしまうと法律違反となりますので、下記の適切な手続きをとった上で、注意深く駆除を行ってください。
- なお、死んだ(枯れた)個体は規制対象外となります。

駆除の手続き (1) 生きたまま運ぶ場合

(1) - 1. 地方公共団体等による計画的・定期的な駆除の場合

外来生物法に基づく「防除の確認・認定」の手続きをとってください。詳細は管轄する環境省地方環境事務所にお問合せください(本マニュアル末尾の問い合わせ先参照)。

※なお、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく廃棄物の処理に伴って保管・運搬する行為については、手続きは必要ありません。

駆除の手続き (1) 生きたまま運ぶ場合

(1) - 2. 地域住民やボランティア等※による小規模な駆除の場合

- ① いつ、どこで、誰が行うのか、インターネットや広報誌、回覧板、掲示板等により事前に告知してください。
- ② 袋に密閉するなど、断片等がこぼれ落ちないように対策してください。
- ③ ①②を行えば、処分するために生きたままごみの焼却施設等に運ぶことが可能となります。



※多面的機能支払交付金の活動組織はこちらに該当。ただし、小規模な活動ではなく相当な規模で計画的・定期的な駆除を行う場合は、(1) - 1. の手続きをとることが望ましい。

駆除の手続き (2) その場で枯らせる場合

※確実に枯らせるためには、雨に当たらない場所で長期間乾燥させることなどが必要となるため、なるべく(1)の手続きをとるようにしてください。

- ① 防除した個体について、根付いたり断片が拡散しないように、袋に密閉してブルーシートの上に置くなどして枯らしてください。
- ② 自治体のごみ処理方法にしたがって処理してください。



駆除対象の群落の大きさや現場条件に応じて、重機あるいは人力での刈り取りを検討



重機による駆除事例



人力による駆除事例

留意事項

- ・生長の初期、個体サイズが小さいうちの除去が有効
- ・茎は千切れやすく、節から活発に再生するため、破片が残らないように刈り取りを行う
- ・駆除作業現場の下流側にオイルフェンス、ダストフェンス、網(4mm目)などを張って、下流域への茎の流出を防止^{※1}
- ・乾いた陸上でも、根付いて再生するので、ブルーシートやアスファルト等の上に置く
- ・重機等に断片が付着して運ばれる可能性があるため、作業後移動の際には洗浄を行い断片の流出を防止する

※1 河川法第20条「河川管理者以外の者の施工する工事等」により、河川管理者の承認が必要となる場合がありますので、事前に当該河川を管理する機関へご相談ください。



ブルーシートの上に置く



流出防止を目的とした網の設置例



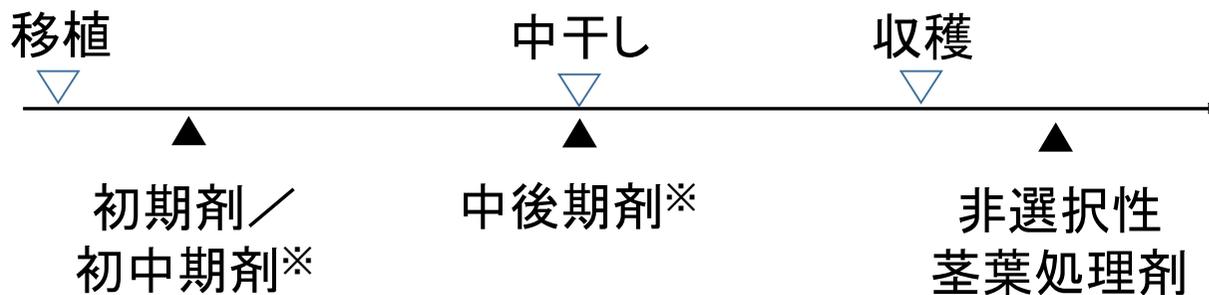
流出防止を目的としたダストフェンス設置例

本田

- ・都道府県の防除指針に基づき、**水稲用除草剤の体系処理**（初中期剤と中後期剤）を行う。
- ・まん延ほ場では**収穫後の非選択性茎葉処理剤の散布**（グリホサートカリウム塩液剤等）も効果的。



イネに覆い被さり、収穫不能に追い込まれたまん延ほ場



※ 現在、より効果的な成分や散布時期について試験中

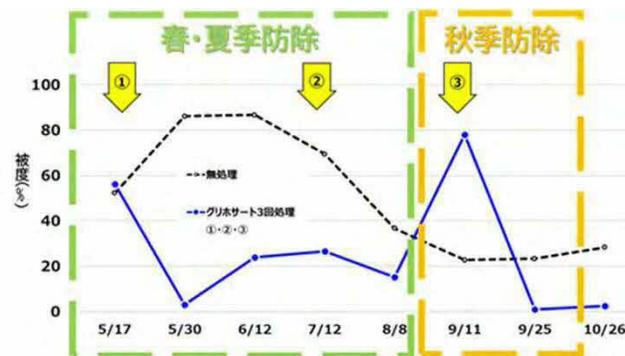
畦畔

- ・刈り払いではなく、**非選択性除草剤**※を活用して防除する。
グリホサートカリウム塩液剤は**秋季の散布**（降霜の前まで）が効果的。

※ 現在、より効果的な成分や散布時期について試験中



侵入地点となる水口付近を丁寧に防除



グリホサート散布後のナガエツルノゲイトウの被度の推移 (実線)

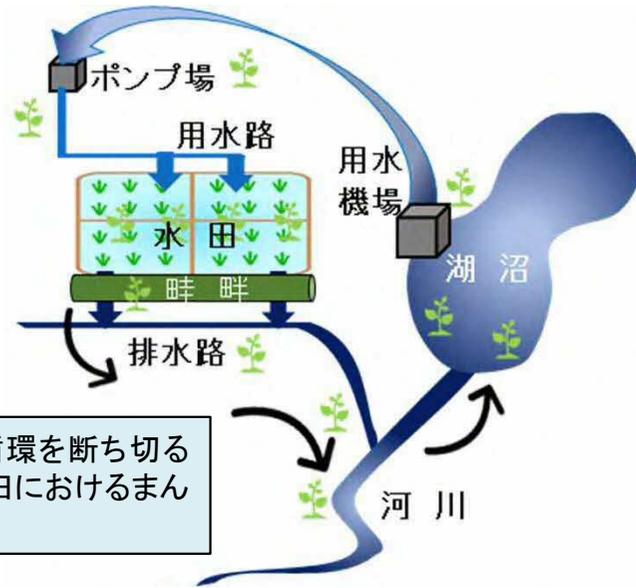
注意

除草剤は**ラベルの表示**（適用場所、使用量、散布回数など）を熟読して使用すること。河川や湖沼に流出するおそれのある場所（河川敷や水路など）では**使用しない！**

水上の群落には除草剤を散布しない



- ナガエツルノゲイトウはかんがい用水等を経由して水田に侵入し、水田で発生した茎断片が流出し流域内を循環する。茎断片の水田への侵入と水田からの流出を防止する。



茎断片の循環を断ち切るために、水田におけるまん延を防止。

水田に侵入させない



給水栓の口に収穫ネットを被せ流入を防止



農機に付着した茎断片が拡散しない作業手順の工夫(未発生ほ場→多発ほ場)。機械洗浄の励行

水田から流出させない



田植え前の落水時、水尻にザル等を置いて茎断片の流出を防止



機械除草は茎断片の水田への飛散、水路への落下に注意

7～8ページの手続きを行った上で処分



水田や畦畔でまん延させない



畔塗りにより茎断片が畦畔に埋め込まれる。畦畔際の水田は除草剤による防除が効果的



防草シート(遮光率100%)による畦畔の被覆や、秋耕と降霜による茎断片の枯殺法も試験中

問い合わせ先

【P1～P6、P9～10】

- 農林水産省 農村振興局 鳥獣対策・農村環境課
TEL:03-3502-6091

【P7～P8】

- 最寄りの環境省地方環境事務所野生生物課
<http://www.env.go.jp/nature/intro/reo.html>

【P11～P12】

- 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
E-mail : niaes_manual@ml.affrc.go.jp
- 農林水産省 消費・安全局 植物防疫課
TEL:03-3502-3382
- 農林水産省 農林水産技術会議 研究開発官(基礎・基盤、環境)室
TEL:03-6744-2216

参考資料

- 外来生物対策指針(H20年3月)【農林水産省】
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/attach/pdf/index-8.pdf
- 外来種が農業水利施設に及ぼす影響と対策【農林水産省】
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/gairai.html
- 特定外来生物の見分け方(同定マニュアル)【環境省】
<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual.html>
- 豊かな農地を守るためにナガエツルノゲイトウ(特定外来生物)の侵入・定着を防ぎましょう【農研機構】
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/139232.html